



みんながつながり 魅力的なまちづくりを

紫野・西陣エリアを もっと元気にしたい!

京都の紫野・西陣エリアは、昔ながらの街並みが魅力的な地域です。一方で、少子高齢化の進行とコロナ禍による日常生活の制限で、子ども達の遊び場や、一人暮らしの高齢者が人と触れ合う機会が減っています。このような課題を解決するために、当金庫北大路支店ではさまざまな取組を重ねてきました。

「北大路みらいづくりラボ」を立ち上げ

その取組の一つとして、北大路支店職員の杉本が発案したのは、**まちづくり** **に取り組む事業者が参画する団体「北大路みらいづくりラボ」**の設立です。現在北大路支店を含め、**福祉、学童保育、不動産業者**など、10の団体がメンバーとして参画しています。

北大路支店ではプロジェクトを立ち上げ、他の団体と協業できる関係づくりを心がけ、ラボの活動に取り組んでいます。地方創生支援に携わる方をお招きし、地域の活性化についてご講演いただいたり、高齢者の日常生活に役立つ取組などをラボ参画メンバーと一緒に考えています。

ラボの活動目標

- 1 紫野・西陣エリアで暮らす人々に、地域の魅力を再発見してもらうための仕掛けをつくる
- 2 地域の事業者や住民のつながりをつくることで、地域で暮らす人々にとって魅力的なまちを一緒につくる



まちを散歩しながら 地域の魅力を再発見

ラボの活動の中で、今回は
2022年5月から6月にかけて開催された
「なぞとき まちさんぽ」をご紹介します。

マップに描かれた店舗を巡って、
店員さんからもらったヒントで
謎を解いていく
まちさんぽイベント。

北大路支店
プロジェクトメンバー



SOWERS様との
打ち合わせ風景



密を避けつつ、コロナ禍でも
地域の人々が気軽に
交流できる場を提供したい

ワクワクする遊び体験を通して、
子ども達に住み慣れた地域の
魅力を見つけてもらいたい

そんな想いを形にするために、ラボの一員で
あり、学童保育事業を営まれているNPO法人
SOWERS様がこの「なぞとき まちさんぽ」を
企画。

北大路支店のプロジェクトメンバーは、当金庫のネットワークを活かし、お取引先
であるカフェ、ものづくり事業者、高齢者施設などに声をかけ、多くの事業者に
ご協力いただきました。また、ゴールした方にプレゼントする景品のデザインの一部
をプロジェクトメンバーが当金庫のインターンシップ生に依頼し、制作してもらいま
した！

私たちの想い



特定非営利活動法人
SOWERS
代表理事
村上 弘 様

日 常の中で子ども達がワクワクできる遊び
体験を提供し、また、社会との接点を持つて
もらうために、弊社ではさまざまな体験活動を
日頃から企画し、開催しています。今回の「なぞ
とき まちさんぽ」では、参加者の方と協力事業者
様からお喜びの声をたくさんいただき、とても嬉し
かったです！今後も子ども達に喜んでもらえる
取組をしていきたいと思ひます。



ラボの発案者
北大路支店 支店長
杉本 昌彦
(現在梅津支店)

紫 野・西陣エリアで暮らす人々に、より豊かな
日常生活を送っていただくために取り組ん
でいる地域の事業者様が多くいらっしゃいます。
同じ志を持った人同士がつながり、それぞれの強
みの相乗効果で地域をより一層盛り上げられたら
いいなと思ひます。北大路支店では、今後より多く
の事業者と地域の住民の方を巻き込み、引続き
地域の魅力を引き出す活動をしていきます。

イベント参加者の声



家族でお出かけする時間を楽し
みながら、普段なんとなく通り過
ぎている店にも行けて、新たな
発見と交流ができました！



週末子どもと一緒に参加して、マップに
描かれた八百屋食堂で新鮮な野菜を買
えて、お店の方との交流も楽しく、子ども
が「また行きたい！」と喜んでいました！

協力事業者の声


ベジサラ舎 店主
中本 千絵 様



京信さんに
声をかけてもらい、
参加しました！



イベント期間中、マップを片手に
多くの方がお子様と一緒にご
来店されました。その後も、「イ
ベントの時にもらったトマトがお
いしかったので、また来ました！」
とのお声をたくさんいただき、と
ても嬉しいです！



シニア世代 ベンチャー 企業の挑戦!

明瞭会話システムの商品化に 西大津支店が伴走!



同社ではアクリル板で落ちた会話の明瞭度を補うために「**ピエゾ直接駆動ユニット**」を開発。

不便が当たり前になった生活環境改善への挑戦

新型コロナウイルスの影響でアクリル板越しの会話が日常化しました。金融機関や病院等の窓口では周りを気にして小声になってしまい、コミュニケーションが取りづらくなっています。この問題解決に大津市のベンチャーIT企業株式会社シザナック様が立ち上がりました。

2020年に設立された同社は、**社員5人全員が67歳以上のシニア**で構成され、大手企業の技術開発や営業の第一線で活躍した経歴を持つベテランぞろいです。

社長の大槻滋俊さん(67)は「**会社員時代にしがらみがあってできなかった夢に挑戦したい**」と起業されました。

金融機関という名の“実験室”の提供

同社は試作品の実証実験をする場所がなく、お困りだったので、当金庫としても何かお役に立てないかと店内プロジェクトを立ち上げました。そして当金庫西大津支店ロビーで実証実験を行い、お客様の生の声を聴いてはどうかと提案しました。また、来店されたお客様にはアンケートにご協力いただき、その内容をフィードバックしました。

大声でなくても会話ができました。

アクリル板越しの会話は、ついでを乗り出して話すことが多く、知らず知らずストレスを感じていると思います。その意味でもとても楽に会話ができました。



石崎様

これからもサポートをさせていただきます！



当時の担当者
圓一 由達 (現在宇治支店)

素晴らしい技術を活かすためのサポートをさせていただきました!

シザナック様は他にも浴室内事故防止のセンサー等、社会的意義のある技術を数多くお持ちです。ただ、コロナ禍で十分な実証実験ができず、せっかくの技術を活かしきれていない状況であり、私としては「もったいない」という思いから実証実験の場を提供させていただきました。今後も伴走させていただき、同社の素晴らしい技術を世に広げていただければ幸いです。

実証実験や販路拡大など、京信さんの協力に感謝しております!

西大津支店さんは試作品ができるたびに店頭カウンターでテストに協力くださいました。おかげでアンプの音量、マイクとスピーカーの位置関係を検証でき、商品化に成功。去る6月23日のNHK「おはよう関西」でも取り上げられ、当社の製品が広く知られました。販路開拓のためのサポートもいただき、当社の製品に興味をお持ちの医療関係事業者様をご紹介いただくなど、とても感謝しています。



シザナック 副社長
野本泰弘 様

シザナック 社長
大槻滋俊 様

今年3月には特許も取得できました!



祇園祭 — 3年ぶりに山鉾巡行が復活 —

日本の三大祭であり、京都に夏の到来を告げる祇園祭。7月1日（吉符入）から31日（疫神社夏越祭）まで、1ヶ月にわたって多彩な祭事が行われる八坂神社の祭礼で、17日（前祭）と24日（後祭）の山鉾巡行でクライマックスを迎えます。新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年、一昨年は中止となっていた山鉾巡行が3年ぶりに実施され、全国から大勢の人々が訪れ、京都のまちは祭りの熱気に包まれました。

山鉾周辺では「コンチキチン」とお囃子（はやし）が奏でられました。



ごみゼロ大作戦

100人を超える京信職員がスタッフとして参加しました

山鉾巡行前の宵山行事期間中は多くの夜店・屋台が立ち並び、カップルや家族連れなど多くの人で賑わいます。そこで、問題となるのがごみの発生です。2014年、これまでの散乱ごみの防止活動に加え、「リユース食器」を活用したごみ減量方策を、この規模のお祭りでは世界で初めて導入し、環境に配慮したおもてなし活動を展開しました。これが、「ごみゼロ大作戦」です。

100人を超える職員が参加しました!



当金庫もこの取組に賛同し、2016年から職員がボランティアスタッフとして活動しています。今年は宵々山の15日、各グループの持ち場でリユース食器の回収や散乱ごみの清掃活動を行いました。



参加職員の感想

ゴミを受け取る時に「ありがとう」「お疲れ様」などの声をかけてもらい、来場者の方にもゴミ問題に対する意識があることを実感しました。

綾傘鉾で棒振り囃子を披露する京信職員



綾傘鉾

南草津支店
渡邊 弘二

～金庫職員として、そして京都市民として～

昭和54年の綾傘鉾の山鉾巡行復活時から囃子方として祇園祭に参加し、40年以上が経ちました。一年を通して稽古をし、私にとって祇園祭は日常生活の一部でもあります。私の他にもお供や曳き手として山鉾巡行の参加、辻回しに使う水のお世話、ごみゼロ大作戦への参加など、多くの職員が祇園祭に関わっていることを本当に嬉しく思います。市民として、そして当金庫の職員として、これからも祇園祭を後世に伝えるべく活動してまいります。



棒振り囃子では太鼓の受け手を担当



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！
[Click!](#)